

財務諸表に対する注記

1 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券 取得価額または償却原価法（定額法）による。

(2) 固定資産の減価償却の方法

建物付属設備 定率法（ただし、2016年4月1日以降取得分は定額法）による減価償却を実施している。

什器備品 定率法による減価償却を実施している。

無形固定資産 定額法による減価償却を実施している。

(3) 引当金の計上基準

退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務に基づき、当期末において発生していると認められる額を計上している。
なお、退職給付債務は期末自己都合要支給額に基づいて計算している。

(4) 消費税等の会計処理

税込処理によっている。

2 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額およびその残高は、次のとおりである。 (単位：円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産 普通・定期預金	13,981,829	1,655,692	0	15,637,521
基本財産 投資有価証券	442,018,171	0	1,655,692	440,362,479
小計	456,000,000	1,655,692	1,655,692	456,000,000
特定資産 公益目的事業予備基金	108,155,325	120,473	315,835	107,959,963
特定資産 受取補助金積立金	3,678,027	5,980,000	5,793,023	3,865,004
特定資産 退職給付引当資産	4,904,200	364,000	2,472,100	2,796,100
小計	116,737,552	6,464,473	8,580,958	114,621,067
合計	572,737,552	8,120,165	10,236,650	570,621,067

3 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。 (単位：円)

科目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産 基本財産引当預金	15,637,521	0	15,637,521	0
基本財産 投資有価証券	440,362,479	0	440,362,479	0
小計	456,000,000	0	456,000,000	0
特定資産 公益目的事業予備基金	107,959,963	0	107,959,963	0
特定資産 受取補助金積立金	3,865,004	3,865,004	0	0
特定資産 退職給付引当資産	2,796,100	0	0	2,796,100
小計	114,621,067	3,865,004	107,959,963	2,796,100
合計	570,621,067	3,865,004	563,959,963	2,796,100

4 固定資産の取得価額、減価償却等累計額及び当期末残高 (単位：円)

科目	取得価額	減価償却等累計額	当期末残高
建物付属設備	11,751,113	3,219,447	8,531,666
什器備品	5,257,384	4,825,436	431,948
無形固定資産	2,963,280	2,872,769	90,511
長期前払費用	1,317,327	336,889	980,438
合計	21,289,104	11,254,541	10,034,563

5 債権の債権金額及び当該債権の当期末残高 (単位：円)

科目	債権金額	貸倒引当金の 当期末残高	債権の 当期末残高
前払金	1,680,035	0	1,680,035
未収金	1,000	0	1,000
立替金	0	0	0
合計	1,681,035	0	1,681,035

6 退職給付関係

(1) 採用している退職給付制度の概要

確定給付型の制度として退職一時金制度を設けている。

(2) 退職給付債務及びその内訳 (単位：円)

① 退職給付債務	△ 2,796,100
② 会計基準変更時差異の未処理額	0
③ 退職給付引当金(①+②)	△ 2,796,100

(3) 退職給付費用に関する事項 (単位：円)

① 勤務費用	364,000
② 会計基準変更時差異の費用処理額	0
③ 退職給付費用(①+②)	364,000

(4) 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

退職給付債務の計算に当たっては、退職一時金制度に基づく期末自己都合要支給額を基礎として計算している。

(5) 会計基準変更時差異の処理年数 7年

7 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益 (単位：円)

科目	種類及び銘柄	帳簿価額	時価	評価損益
投資有価証券	三菱UFJフィナンシャルグループ社債	111,565,093	108,983,600	△ 2,581,493
〃	日本郵船社債	108,797,386	105,765,000	△ 3,032,386
〃	ユーロ円建運用指数連動債20年	120,000,000	101,208,000	△ 18,792,000
〃	ユーロ円建運用指数連動債15年	100,000,000	90,700,000	△ 9,300,000
〃	明治安田生命社債	97,319,473	94,340,000	△ 2,979,473
小計		537,681,952	500,996,600	△ 36,685,352

8 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
要介護高齢者の社会的なWell-beingを評価する「参加」指標の探索	文部科学省	1,589,472	0	628,413	961,059	指定正味財産
ICTを活用した女性介護者の健康支援に関する研究	文部科学省	941,848	1,560,000	1,113,920	1,387,928	指定正味財産
科学的介護情報システムの質の評価に有効な補整手法の開発	文部科学省	0	1,820,000	600,437	1,219,563	指定正味財産
シルバー人材センター会員に着目した高齢就業者の安全・健康管理に向けた要因の解明	文部科学省	0	650,000	650,000	0	指定正味財産
自治会消滅の実態を踏まえた新たな地域自治モデルの創出	文部科学省	200,000	130,000	330,000	0	指定正味財産
ポジティブ心理学的介入が軽度要介護高齢者の精神的健康に及ぼす効果	明治安田厚生事業団	946,707	0	650,253	296,454	指定正味財産
認知機能に不安を抱く高齢者への就業継続支援：シルバー人材センターにおける検討	文部科学省	0	1,820,000	1,820,000	0	指定正味財産
補助金等合計	-	3,678,027	5,980,000	5,793,023	3,865,004	-

9 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

(単位：円)

内容	金額
経常収益への振替額 目的達成による指定額解除	5,793,023
合計	5,793,023

10 金融商品の状況にかかる注記

(1) 金融商品に対する取組方針

当財団は、公益目的事業を運用益によって賄うため、債券、株式、デリバティブ取引等を組み込んだ複合金融商品により資産運用する。なお、投機目的のデリバティブ取引は行わない方針である。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

投資有価証券は、債券、株式、デリバティブ取引を組み込んだ複合金融商品であり、発行体の信用リスク、市場リスク（金利の変動リスク、為替の変動リスク及び市場価格の変動リスク）にさらされている。

(3) 金融商品のリスクに係る管理体制

ア. 資産管理運用規程に基づく取引

金融商品の取引は、当財団の資産管理運用規程に基づき行う。

イ. 信用リスク及び市場リスクの管理

債券及びデリバティブ取引等を組み込んだ複合金融商品については、発行体の信用情報や時価の状況を把握し、管理運用状況について理事会等に報告する。